

「荒川流域エコネット地域づくり推進協議会」では



人と自然が安心して暮らしていける地域づくりに向けて、
(例えば、生物調査や外来種対策の促進、広報など、)
地域関係者が連携して、
エコロジカル・ネットワーク形成の取り組みを進めています



荒川流域エコネット形成による

荒川やその周辺地域において
さまざまな生きものの生息環境を
守り・育み・つなげます



豊かな地域づくりを目指して

コウノトリなど多様な生物のすみ
自然豊かな環境づくりは
安心して暮らせる未来につながります



地域が連携・協力しています

荒川流域の地域関係者が
協議会において連携を図りながら
取り組みを進めています



(研究者、市民団体、県市町、国)

取り組みの実現には、「この空にコウノトリを羽ばたかせよう」と考え・行動する、多くの人の参加・協力が必要です。
そこで、地域関係者が主体的に実施できること、また連携・協力することでさらなる効果が期待できることを、
「荒川流域エコネット地域づくり アクションプラン (令和3年3月)」にとりまとめました。
現在、このプランに関連する各種の対策・検討を、地域関係者が連携・協力しながら進めています。

荒川流域エコネット地域づくり アクションプラン

生物の 生息環境保全 に関するプラン



①合同生きもの調査の実施



②ゴミ・外来種問題への対応

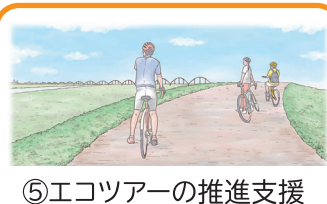


③環境学習・観察会の推進支援

地域振興 経済活性化 に関するプラン



④各種広報の展開



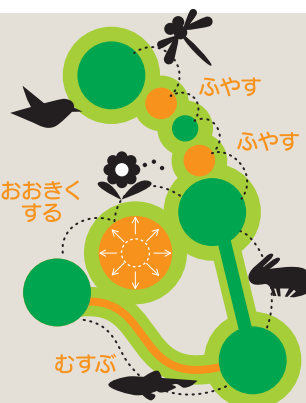
⑤エコツアーの推進支援



⑥関係者間のネットワーク支援

Q 荒川流域エリアにおける「エコロジカル・ネットワーク形成」とは…?

- 私たち人間は、河川から食料や水の供給を受けたり、森林による気候調節によって守られたりと、自然からさまざまな恵み(生態系サービス)を受けて生活しています。この日々の豊かさや安全な暮らしに欠かさない生態系サービスを支えているのが「生物多様性」です。
- 生物多様性を守るには、広く、さまざまな場所で、自然環境を保全・再生していく必要があります。これを効果的に進めていくために、いまある自然拠点をつなげる「エコロジカル・ネットワーク」の考え方が重要です。自然拠点のつながりを強くするには、拠点をむすぶだけでなく、拠点を大きくしたり、たくさんつくるのが有効で、そのためには多くの人の力が必要です。
- 荒川流域エリアの自然拠点は、河川・水路・水田・森林・公園など多種多様で、関わる人もさまざまです。そこで、自然のつながりを強くする「エコロジカル・ネットワーク形成」に向けて、エリア内の多様な地域関係者が連携・協力して取り組んでいるのです。



コウノトリ等の大型水鳥をはじめ、多様な生きものがすみ地域づくりは、私たち人も、荒川の営みに育まれたより豊かな自然の恵みを受け、安心して暮らせる未来につながります。
この未来に向けて、「この空にコウノトリを羽ばたかせよう」と思い・行動するさまざまな人・地域・活動を繋いでいきます。

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会は、地域関係者(学識者、市民団体、鴻巣市、桶川市、北本市、川島町、吉見町、埼玉県、国土交通省)の連携・協力により、地域の自然環境を豊かにし、さらに地域振興につながる取り組みを充実させることで、自然と治水が調和した魅力的な地域づくりを実現させることを目指し、平成29年度に設立されました。

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会 <https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo00732.html>

